

平成 29 年 8 月 20 日 (日)

秋の特別展関連 シリーズ講座 第 2 回

讃岐国府の実像に迫る ~成立から展開まで~

松本和彦 (香川県埋蔵文化財センター)

1. 国府とは?

(1) 中央による地方統治システム

(2) 国府の機能と構造

2. 見えてきた讃岐国府の姿

(1) 地理的環境

(2) 周辺の遺跡分布

(3) 発掘調査から見た国府の全体像

(4) 国府の成立から展開まで(開法寺東方地区に見る遺構変遷)

3. 開法寺東方地区に見る讃岐国府の実像

1. 国府とは?

(1) 中央による地方統治システム

① 大化の改新 : 乙巳の変(大化元(645)年)後の一連の改革

- ・天皇を頂点とした中央集権体制を指向
- ・広域行政ブロック ; 五畿七道(東海道・東山道・北陸道・山陽道・山陰道・南海道・西海道)
- ・国割り ; 68 国
- ・天下立評 ; 国内に評を設定

讃岐国・11 評 cf)、石神遺跡から出土した木簡 ; 「三野評」・「多土評」

※ この段階では国府は未設置 = 中央から派遣された国宰(クニノミコトモチ)が国内を総括

→ 評家(郡家、郡衙)の一員として施設を使用

→ 国宰のもと、地域に根差した伝統的な地方豪族を中央の行政的な枠組みに編成

・里(郷)の設置

② 『大宝律令』: 大宝元(701)年

・国府の設置 / 中央から国司が派遣(恒常的な派遣)

・郡の設置(評 → 郡) ※ 讃岐国 = 11 郡 89 郷

・郷の設置(里 → 郷)

※ 統治システムの完成

国 - 郡 - 里(郷) / 国府 - 郡衙 - 里家(郷家) / 国司 - 郡司 - 里長(郷長)

cf)、県 - 市町村 - 自治会 / 県庁 - 市役所等 - 自治会館 / 県知事 - 市町村長 - 自治会長

※ 国司は任期 6 年(のちに 4 年)

※ 郡司は伝統的な地方豪族で編成(任期のない終身官)

(2) 国府の機能と構造

① 国司の職掌(『養老令』・『職員令』70 大国条、天平宝字元(757)年施行)

「祠社のこと、戸口の簿帳、百姓を字養すること、農桑を勧課すること、所部を糾察すること、貢挙、孝義、田宅、良賤、訴訟、租調、倉庫、徭役、兵士、器仗、鼓吹、郵駅、伝馬、烽候、城牧、過所、公私馬牛、闘争の雜物のこと、及び、寺、僧尼の名籍のこと。」

→ 財政機能・治安維持機能・宗教機能等、多岐に渡る国内の政務全般を総括・指揮

→ 政務全般を文書行政に基づき、行政的・制度的に執行

② 国府の機能と象徴性

・ 様々な政務等を行う施設の集合体

	施設名	主な役割	関連する人びと
国府内に所在する施設	国庁(政庁)	政務・儀式・宴会	国司、国府官人、健児など
	曹司	行政実務	
	厨	調理など	
	倉庫 1(貴重品)	印・鍵などの保管	
	倉庫 2(文書)	公文書の保管	
	倉庫 3(兵器)	併記の保管	
	軍団	軍備	
	国学	教育・孔子の靈廟	
	国司館	官舎(後に中心施設に)	
	宿舎等	健児・労働者などの宿舎	
国府の近隣に所在する可能性が高い施設	工房	手工業生産	工人など
	国師院(講師院)	宗教管理	国師
	国分寺・国分尼寺	国家祭祀・寺院統括	国師
	駅家	交通・連絡	駅長など
	国津(国府津)	港湾	津長など
	烽火	通信	烽長など
	市	交易	官人など
	郡衙(郡家)	郡の役所、稻の倉庫など	郡司など
	一般の人びと		

表 1 文献史料等に見る国府関連施設

・ その一方で、国家がもつ「公共性」を象徴する場

政務や行政は儀礼の形式で執行

→ 政務・儀式・宴会からなる儀礼

執行の場を象徴する施設 = 「国庁(政庁)」

正殿 = 天皇を象徴

その前に中央から派遣された国司が鎮座

広場 = 国府の官僚や郡司が参列

☆ 国庁とは中央と地方の服属関係や官人意識を再認識する装置

cf)、各郡には郡衙(郡家) - 「郡庁」(国庁と同構造)

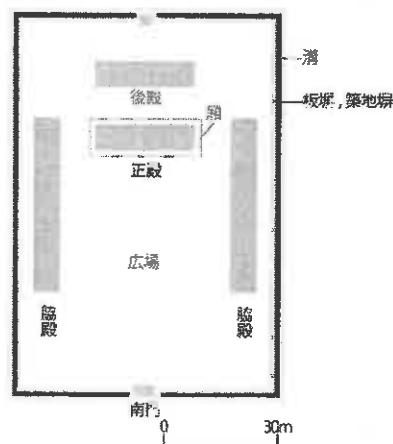


図 1 国庁の復元図

③国府の構造（全国の発掘調査例から見た国府の姿）

国庁／曹司／国司館（守・介・掾・目）／倉庫群／厨／国学／宿舎／雜舎／工房



図2 出雲国府の復元模型（左：全体、右：国庁周辺、○：国庁）

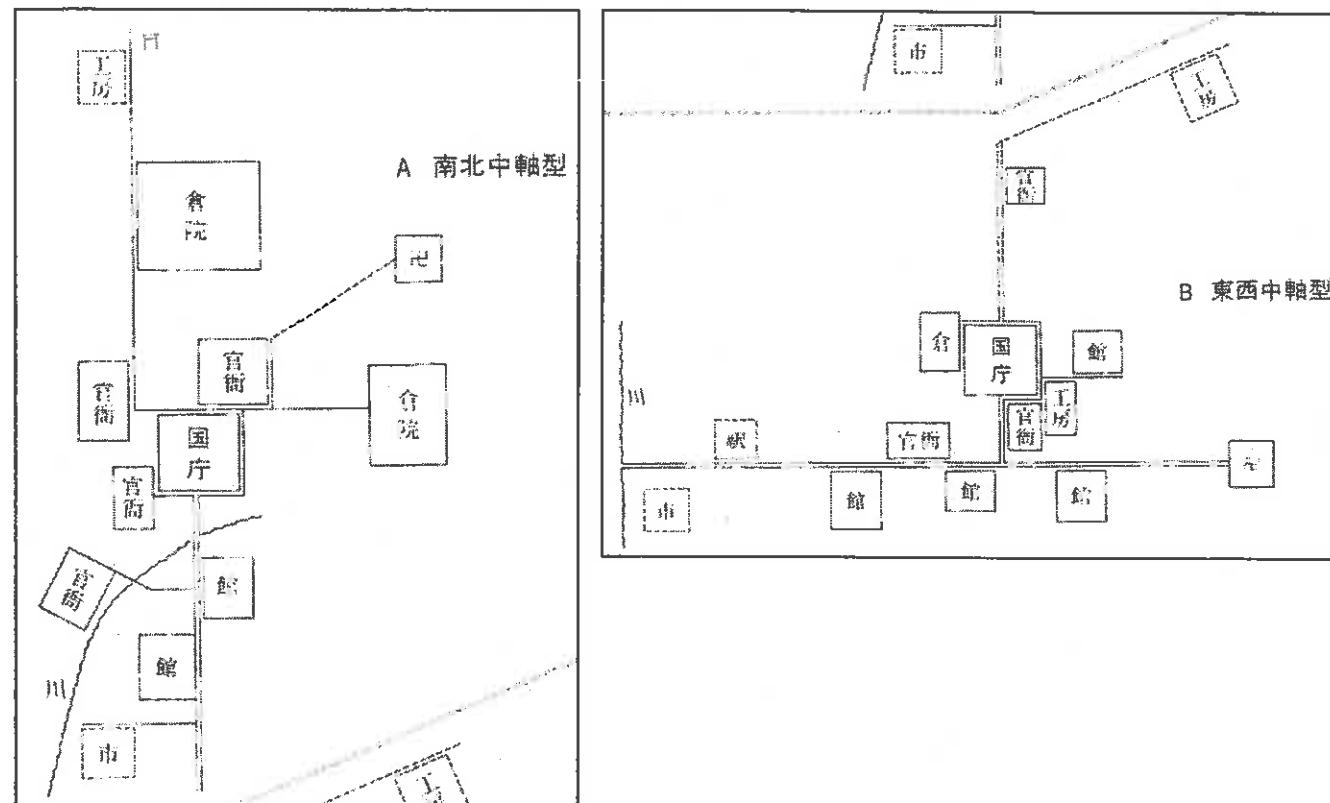


図3 国府構造（国府域パターン）の模式図

国府の構造的な特徴

- ①国庁を中心に、諸施設が広い範囲（1 km四方程度）に分散的に集中
- ②各施設は国司館、曹司（ぞうし、役所）、倉庫、学校、宿舎、軍団など
- ③国府付属寺院が併設される国府も存在
- ④各施設を直線的な道路で連結
- ⑤こうした広がりを「国府」・「国府域」と呼称

2. 見えてきた讃岐国府の姿

（1）地理的環境 資料1

- ・綾北平野の最奥（閉塞的な空間）／綾川が平野に注ぎ出る箇所
※綾北平野=狭小な平野 ⇔ 広大な平野=高松平野・丸亀平野
- ・陸路とのアクセス
南海道が国府の南ないし国府内に接続
- ・海路とのアクセス=推定国府津と国府
綾川水運／直線的な陸路=「馬さし大貫」（南北道、幅10m程度）
- ☆讃岐国府は陸路と海路の結節点に所在=計画的・選択的な造営

（2）周辺の遺跡分布 資料1

- ・約9 km四方に古代の重要遺跡が集中

城山城、国分二寺、府中山内瓦窯跡、十瓶山窯跡群（国府に関連する須恵器・瓦窯跡）、
国府津（国津）、古墳時代終末期の古墳群など
☆讃岐国府はそのほぼ中央に位置

（3）発掘調査から見た国府の全体像

①前提

- ・文献資料

『和名類聚抄』（10世紀前半）
「国府阿野郡に在り」→阿野郡に所在

『白峯寺縁起』（応永13（1406）年）

「国府甲智郷鼓丘の御堂」、「国府の御所」→阿野郡甲智郷・鼓丘の周辺

・【府中】という地名

『城山神社記』（正徳5（1715）年）などから旧甲智郷に所在する「府中村」（近世村）に由来

・『昔家文草』（仁和2（886）年）

「開法寺は府衙の西に在り」→「開法寺」の東に「府衙」（国府の施設の一つ）が所在

☆『香川県遺跡地図』に登載された遺跡としての範囲（周知の埋蔵文化財包蔵地）

文献が示す府中町本村周辺／歴史地理学の研究で示された方六町のエリアに依拠

→南北約600m、東西約450～500mのエリアを暫定的に「讃岐国府跡」として登載

②発掘調査の実施状況 資料2

第1期調査：昭和52～59年度に実施した香川県教委（坂出市教委）による内容確認調査

第2期調査：昭和63年度以降の坂出市教委による開発に伴う事前の確認調査

第3期調査：平成21～28年度に実施した香川県教委（当センター）による内容確認調査

「讃岐国府跡探索事業」；平成23年度以降は開法寺跡の東を重点的に調査

③旧地形の復元 資料2

- ・城山山裾から続く複数の低地帯

- ・低地帯間に微高地（安定した小高い丘）

☆国府に関連した古代の建物等は微高地上に展開

④発掘調査された遺構と出土遺物

・主な遺構

6次調査：大形総柱建物（3×4間、柱間間隔2.1m、床面積約50m²、8世紀後葉）

7次調査：2条平行の溝（溝間約2m→築地か、8世紀末～10世紀中頃）

9次調査：区画溝と柵列（溝と板塀で囲まれた区画施設か、9～10世紀）

11次調査：2条平行の溝（溝間約3m→道路か）

29～34次調査：開法寺東方地区（「讃岐国府跡探索事業」）

遮蔽施設、内部に超大形建物・大形建物が計画的配置

4・6・7・16次調査ほか：古代末～中世前期の濃密な柱穴群+井戸

・主な遺物 資料3

全体：硯、緑釉陶器・灰釉陶器が高い頻度で出土

（讃岐国内の集落等との比較では随一の出土量）

瓦：国府域南側で多く分布

緑釉瓦

讃岐国府独特の文様も存在（「讃岐国府式瓦」）

国分寺・国分尼寺と同范瓦も存在

※開法寺東方地区

他地点よりも高比率で瓦、硯、国産施釉陶器が出土／三彩等の稀少品も出土

古代末～中世前期：中国産輸入磁器の多量保有、灯明具の先駆的な使用

⑤区画施設（国府を構成する諸施設）の配置状況ほか 図8・9

配置状況

・遺構内容から、複数の区画施設の配置が想定可能

・区画施設は国府を構成する諸施設

・一定エリアに諸施設が分散的に集中

・南端部付近の開法寺の東の区画施設（図5の○）

開法寺東方地区

他の区画施設よりも大規模、遺物の質・量も突出

時期別の施設分布傾向

・9世紀前葉まで

国府域南側を中心に分布（資料4の区画①～⑤）

・9世紀中葉以降

国府域北側にも分布（資料4の区画⑥・⑦）

☆9世紀中葉に国府域の拡大

低地帯の埋め戻しや大規模な整地（造成）による地形の克服

→能吏国司の赴任の影響!?

安倍興行（878～880年）、藤原保則（882～885年）、菅原道真（886～890年）

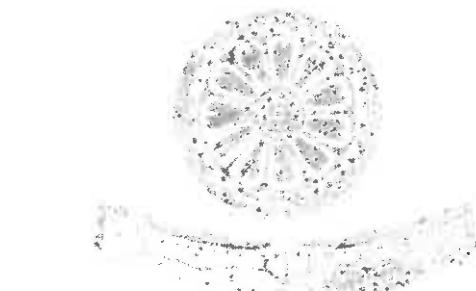


図4 讃岐国府式瓦

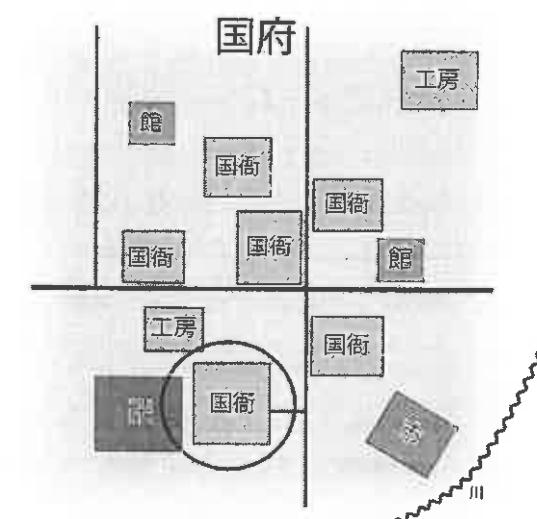


図5 讃岐国府の構造概念図

（4）国府の成立から展開まで（開法寺東方地区に見る遺構変遷） 資料5

・国府南端部の開法寺東方地区における発掘調査の成果＝国府の詳細な変遷が判明

①第1期－7世紀中葉－【堅穴建物群と道路遺構】

・二十数棟の堅穴建物

・直線距離40m以上の直線的な道路

②第2期－7世紀後半～8世紀初頭－【正方位主軸の建物群】

・正方位（真北）を指向する建物群

官衙的な建物配置（L字形建物配置）／大形建物

③第3期－8世紀前葉～中葉－【条里地割に合致した主軸方位の建物群と生産関連遺跡】

・基軸：正方位→条里地割へ

・小・中形建物が点在（建物配置状況は不詳）

・鉄関連？の生産遺構

・出土遺物 磯内系土師器／焼塩土器／硯

④第4期－8世紀後葉～11世紀前葉－【区画施設の出現と官衙的な建物配置】

○第4-1期－8世紀後葉～9世紀中葉－

・区画施設の出現

一辺80m程度、遮蔽施設＝一本柱塀構造（2条平行の溝+柵列）

・超大形建物（床面積約100m²）を含む建物群

・規則的な建物配置

Aブロック；東西主軸／Bブロック；東西主軸／Cブロック；南北主軸

・出土遺物

磯内系土師器／京都産土師器／異形黒色土器／硯／軒丸瓦（国分尼寺同范）

○第4-2期－9世紀後葉～10世紀初頭－

・区画施設の継続

・超大形建物（床面積約140m²）、大形建物群 ※讃岐国最大・最大級の建物（寺院を除く）

・規則的な建物配置／建物内容充実

Aブロック；東西主軸／Bブロック；東西主軸／Cブロック；南北主軸

※Bブロックの建物規模等充実、B・CブロックはL字形建物配置

・出土遺物

三彩／銅鏡／硯（大形円面硯含む）

○第4-3期－10世紀前葉～11世紀前葉－

・区画施設の継続

・超大形建物（床面積約120m²）を含む大形建物群

・規則的な建物配置

Aブロック；東西主軸／Bブロック；東西主軸／Cブロック；南北主軸

※Bブロックの建物構造・配置は前代を踏襲、B・CブロックはL字形建物配置

※大形廐棄土坑：被熱痕のある土師器壊や瓦などを一括廐棄

当該期直前ないし当初に当地区は大規模な火災（天慶の乱!？）→直ちに再建

・出土遺物 越州窯系青磁ほか

⑤第5期 -11世紀中葉～13世紀- 【新たな空間構成、屋敷地的なまとまりの集合体】

- ・前代の区画施設や規格的な建物配置の消滅
- ・井戸を完備する濃密な柱穴群
　開法寺東方地区で3ブロック／国府全体では11ブロック以上が密集（資料6）
- ・出土遺物（資料7・資料8）
　中国産輸入磁器の多量保有
　灯明具の先駆的な使用（専用の灯明具の存在）

3. 開法寺東方地区に見る讃岐国府の実像

- ・開法寺東方地区的遺構変遷のなかの画期

①画期1：第2期（7世紀後半）

【正方位建物群の出現】

☆建物主軸や配置から、官衙的（役所的）な性格を付与することが可能
　ただし、国府が設置される直前の段階であり、その位置付けは検討が必要

②画期2：第4期（8世紀後葉）

【区画施設の出現／区画内に規則的に建物を配置】

一辺80m程度の規模、L字形の建物配置（官衙的な建物配置）

200年以上という長期間に渡って継続＝機能維持

建物規模は讃岐国内最大・最大級（寺院を除く）、廂付建物＝高い格式の建物群
大形円面鏡や三彩、国産施釉陶器も格式の高さを象徴

☆『菅家文草』「開法寺は府衙の西にあり」という注釈

開法寺東方地区は開法寺跡との位置関係から、道真が「府衙」と呼ぶ施設が所在
→時期的には第4期の区画施設は「府衙」に相当

③画期3：第5期（11世紀中葉）

【区画施設の消滅→複数の屋敷地的なまとまりの複合体への変化】

各ブロック単位は、讃岐国内で認める在地領主居館と同等→それらが密集

さらに、中国産輸入磁器の多量保有、先駆的な灯明具の使用

当該期の国府には「留守所」が設置（文献資料）

☆これらの複合体が国衙機能を継承するならば、留守所の実態を反映する可能性

→在庁官人として国府で政務を執り行う讃岐国内の地方豪族の宿营地

※なお、讃岐国府跡では、13世紀末以降は遺構・遺物が激減＝【国府機能の停止】

※また、画期設定は行っていないが、第3期の始まりも重要

【国府が設置される時期】（8世紀前葉～中葉）

地割の方位が正方位から条里方向に転換、条里主軸の建物群が展開

→初期の国府関連施設の可能性

→生産関連遺構は国府の初期整備に関連する可能性

＜挿図・表引用文献＞

- 図1 香川県埋蔵文化財センター作成
- 図2 島根県古代文化センター『出雲国府周辺の復元研究』2009年より抜粋・一部加筆
- 図3 金田章裕「国府の形態と構造について」『国立歴史民俗博物館研究報告』第63集 国立歴史民俗博物館 1995年より抜粋・一部加工
- 図4 香川県教育委員会『讃岐国府跡1』2016年より抜粋
- 図5 香川県埋蔵文化財センター作成

- 資料1 香川県教育委員会『讃岐国府跡1』2016年より抜粋
- 資料2 香川県埋蔵文化財センター作成
- 資料3 香川県教育委員会『讃岐国府跡1』2016年より抜粋
- 資料4 香川県教育委員会『讃岐国府跡1』2016年より抜粋・一部加筆
- 資料5 香川県埋蔵文化財センター作成
- 資料6 香川県教育委員会『讃岐国府跡1』2016年より抜粋・一部加筆
- 資料7 香川県教育委員会『讃岐国府跡1』2016年より抜粋
- 資料8 香川県教育委員会『讃岐国府跡1』2016年より抜粋

表1 奈良文化財研究所 馬場基氏による教示内容を基に作成

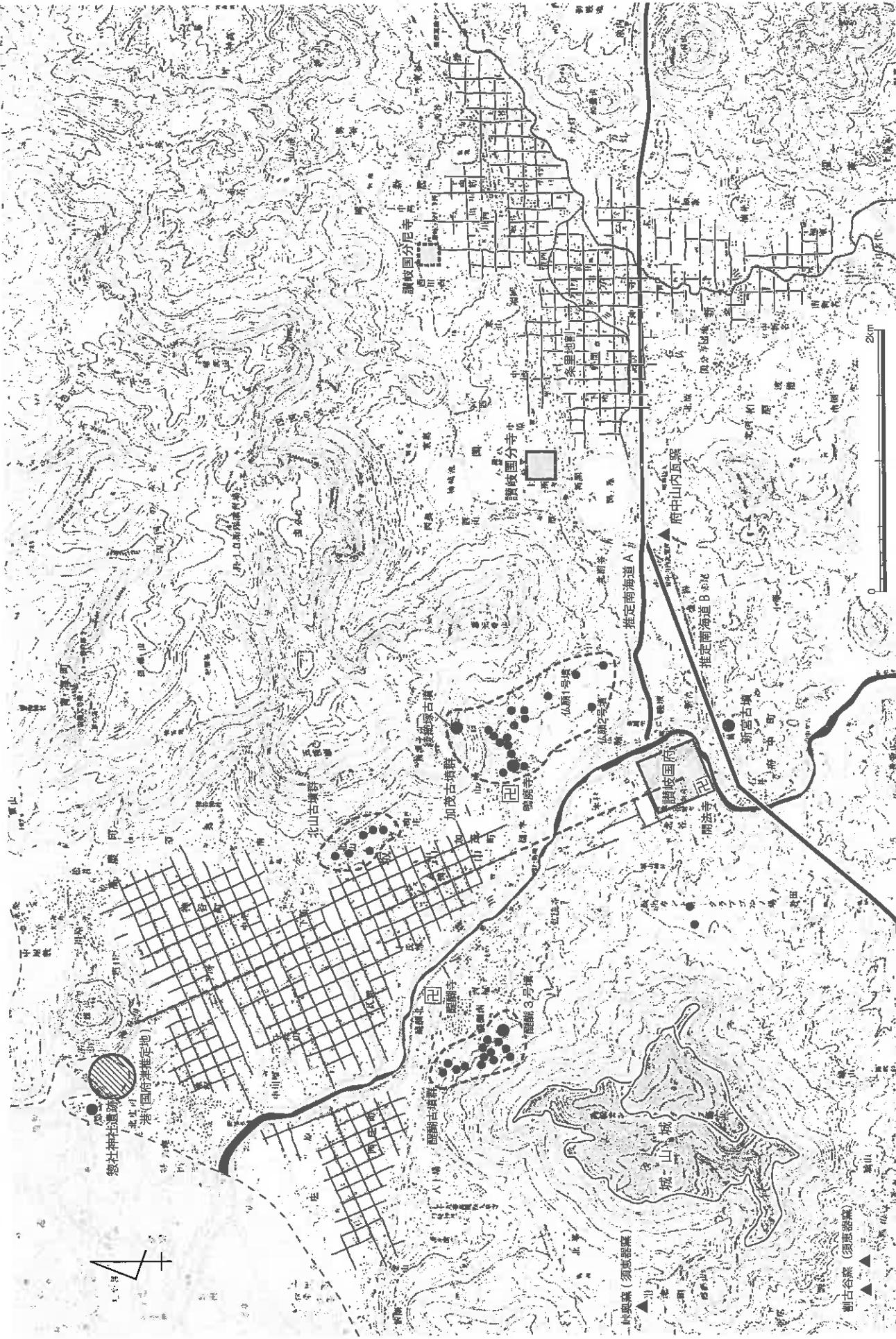
＜主要参考文献＞

- 佐藤信 2007 日本史リブレット8『古代の地方官衙と社会』山川出版社
- 住谷善慎・十河裕之・佐藤竜馬 2012 「讃岐国の位置と国府の立地を考える」『香川県埋蔵文化財センター 研究紀要』VIII 香川県埋蔵文化財センター
- 佐藤竜馬 2012 「讃岐国府周辺における土地利用形態－発掘調査成果からの素描－」『香川県埋蔵文化財センター 研究紀要』VIII 香川県埋蔵文化財センター
- 山中敏史 1994 『古代地方官衙遺跡の研究』塙書房
- 香川県教育委員会 2016 『讃岐国府跡1』
- 香川県埋蔵文化財センター 2010 『讃岐国府跡を探る』
- 香川県埋蔵文化財センター 2011 『讃岐国府の時代』

【予告】

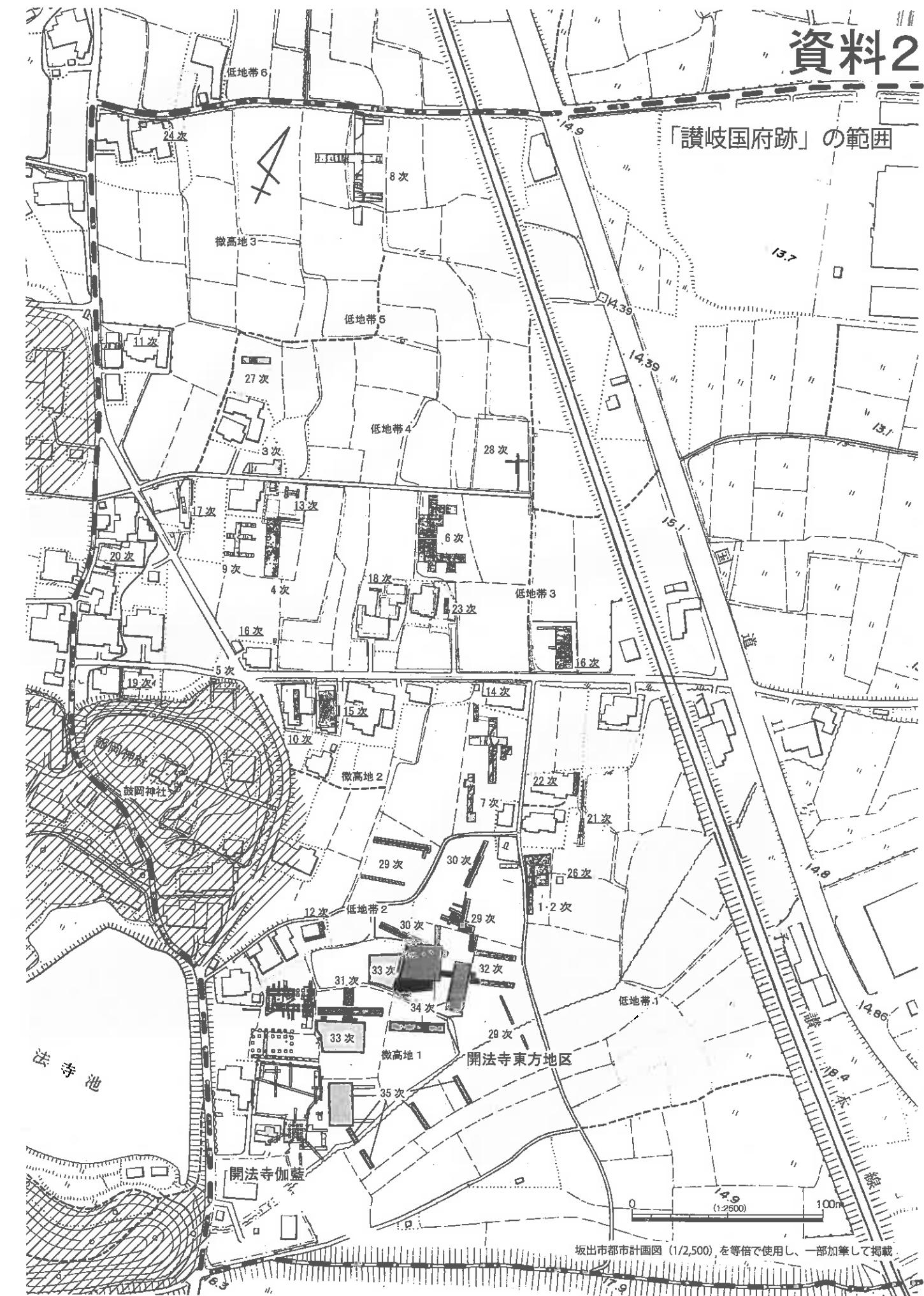
- ・特別展「讃岐びと、時代を動かす—地方豪族が見た古代世界—」
　平成29年10月7日（土）～11月26日（日）
- ・特別展関連 シンポジウム「地域から見る古代史の可能性」（仮）
　平成29年10月29日（日） 午後1時30分～4時30分
- ・特別展関連 シリーズ講座 第3回「讃岐びと、次代へ向かう—古代から中世へ—」
　平成29年11月12日（日） 午後1時30分～3時00分

資料一



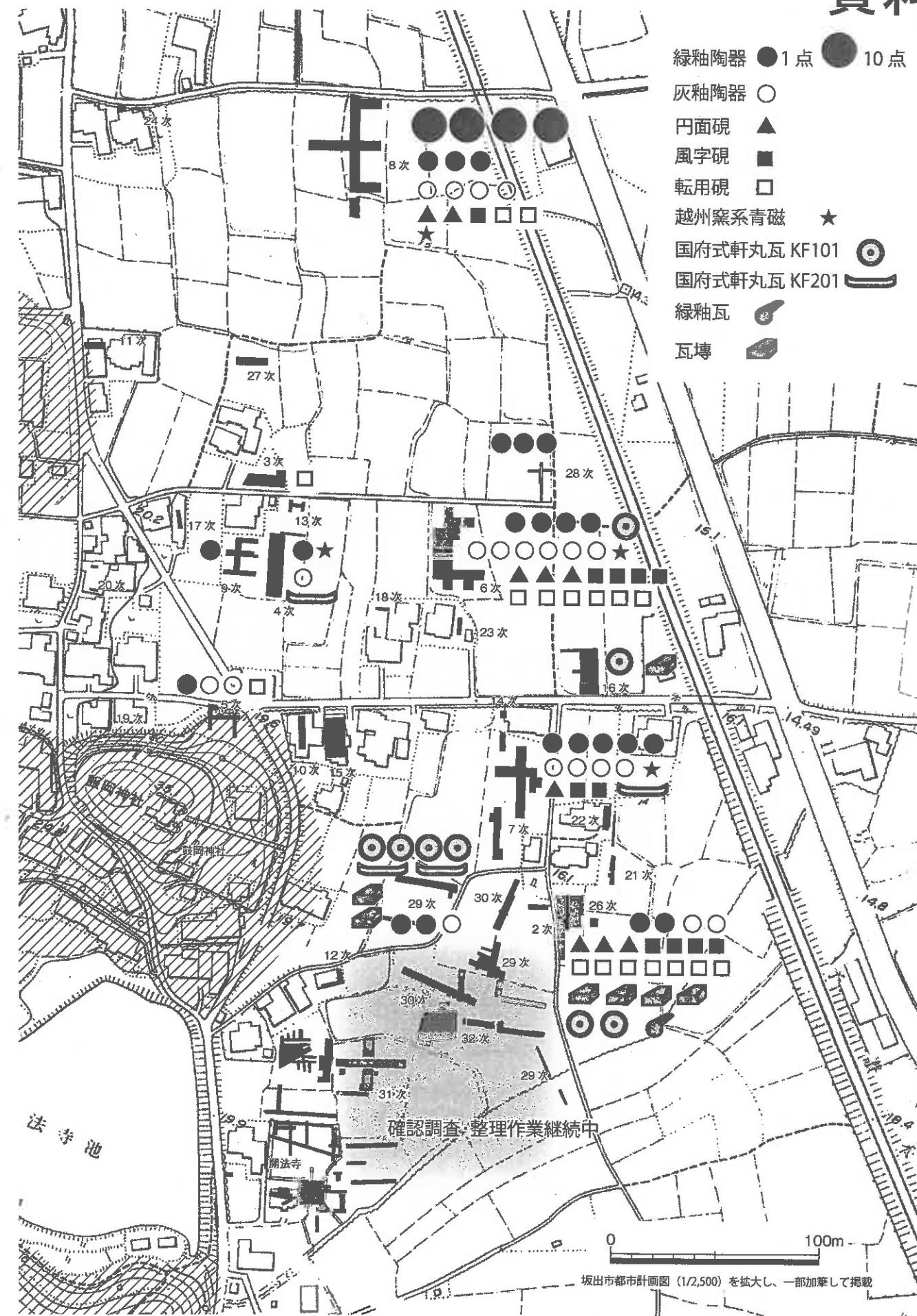
圖分布の遺跡周辺

資料2



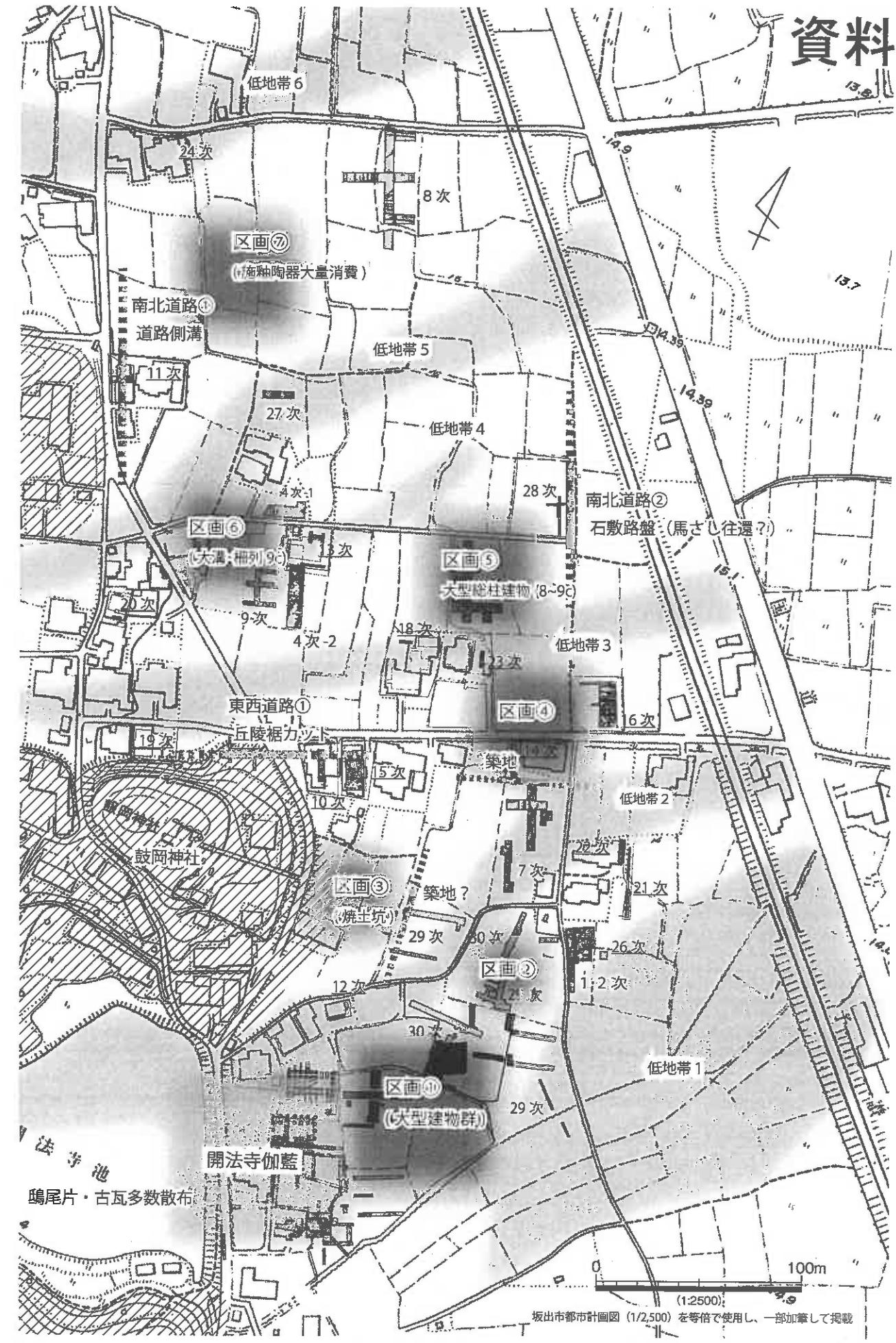
讃岐国府跡 調査位置図及び地形復元図

資料3



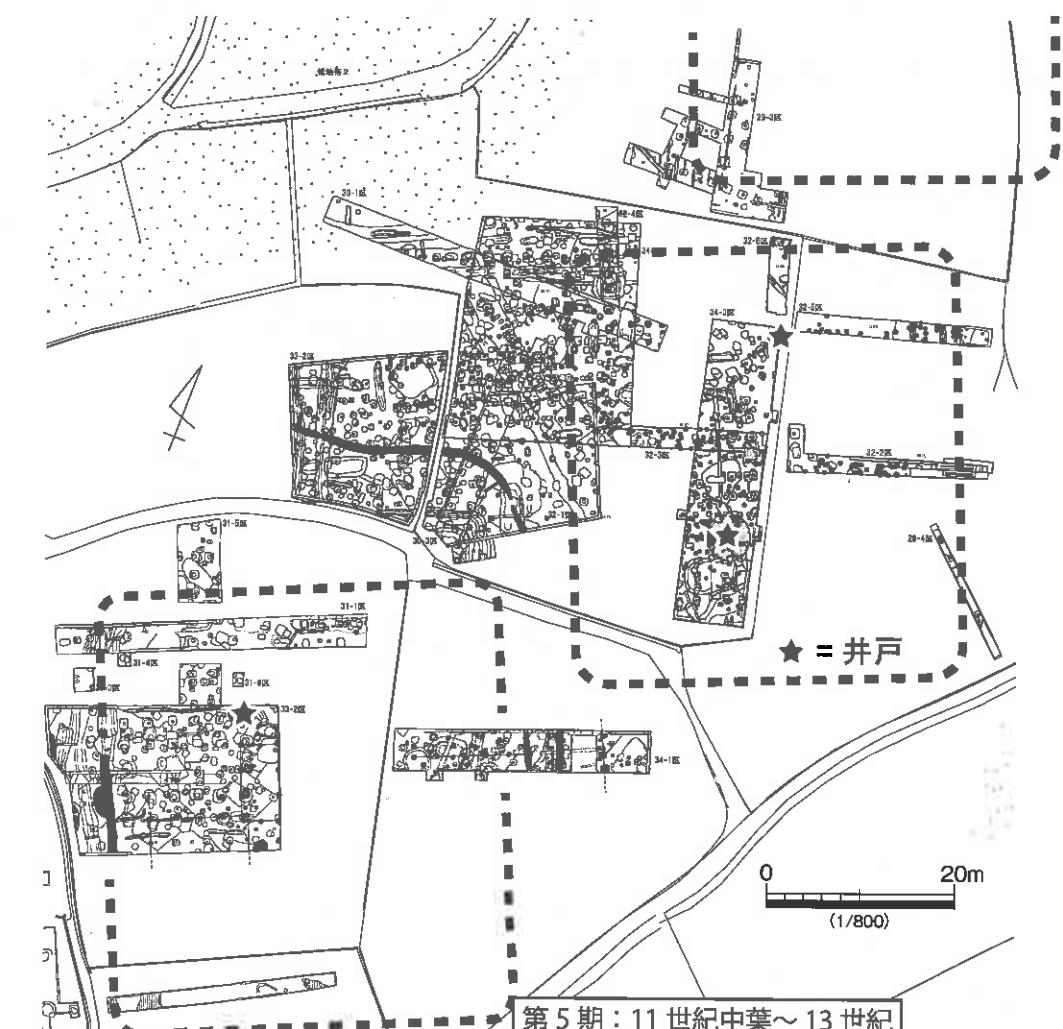
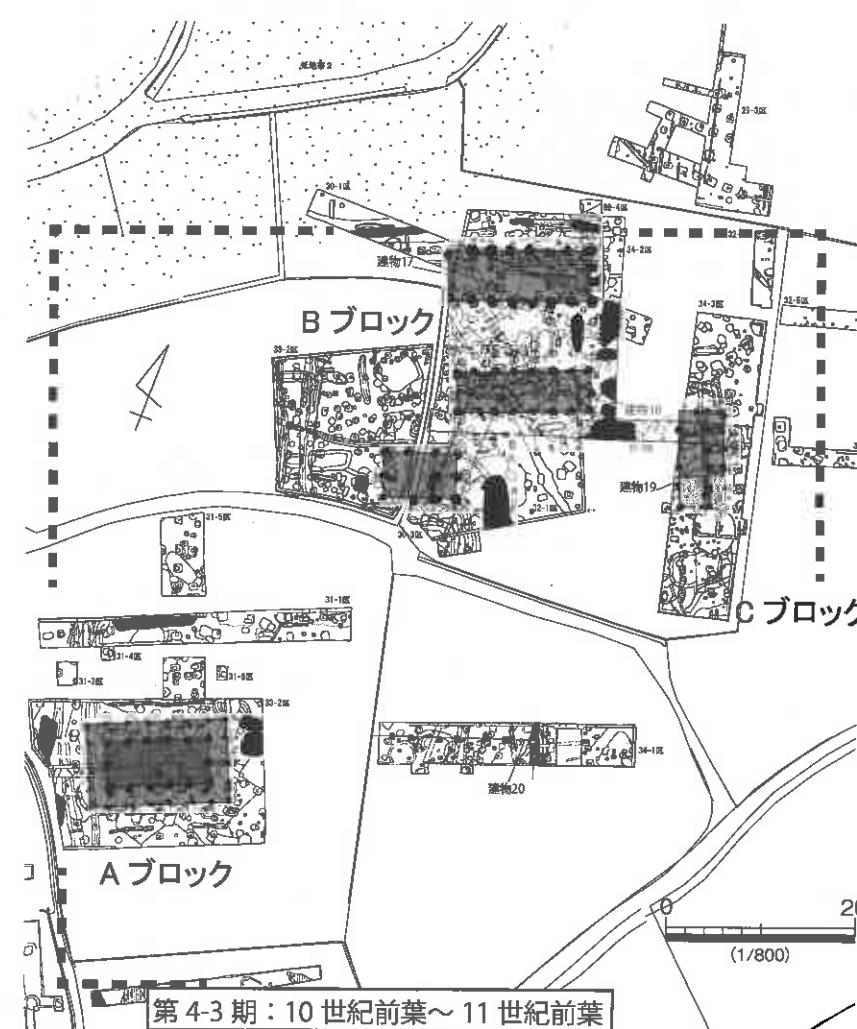
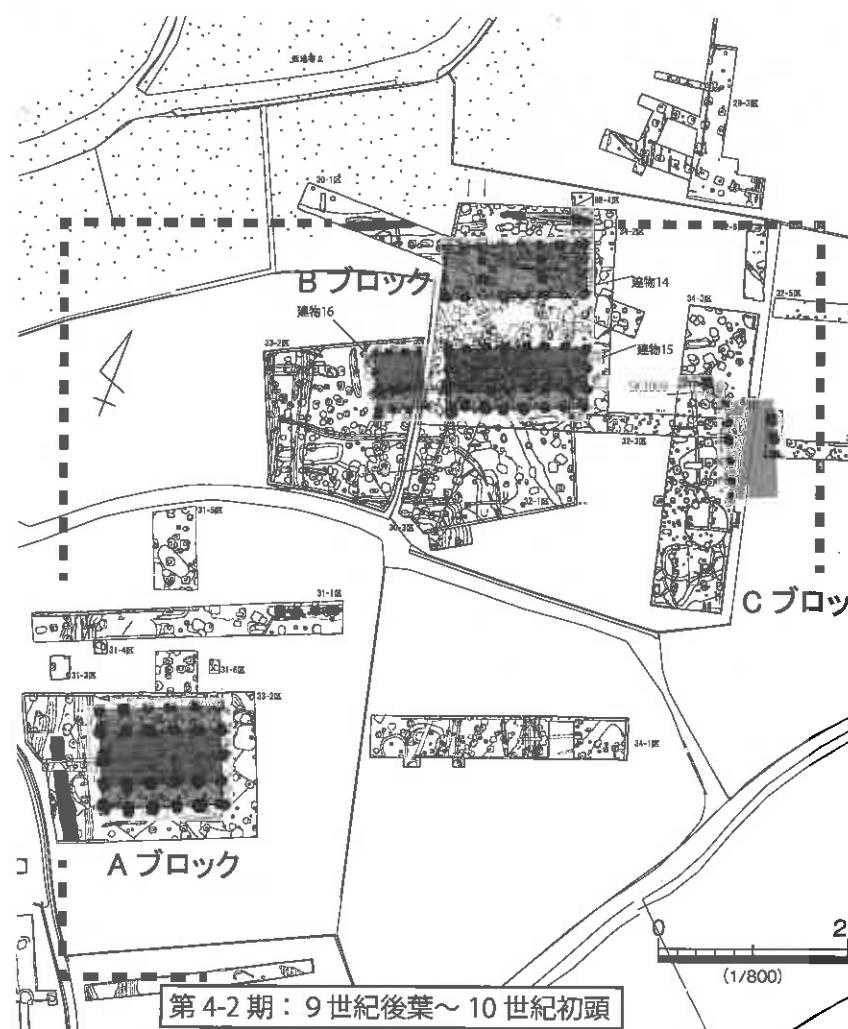
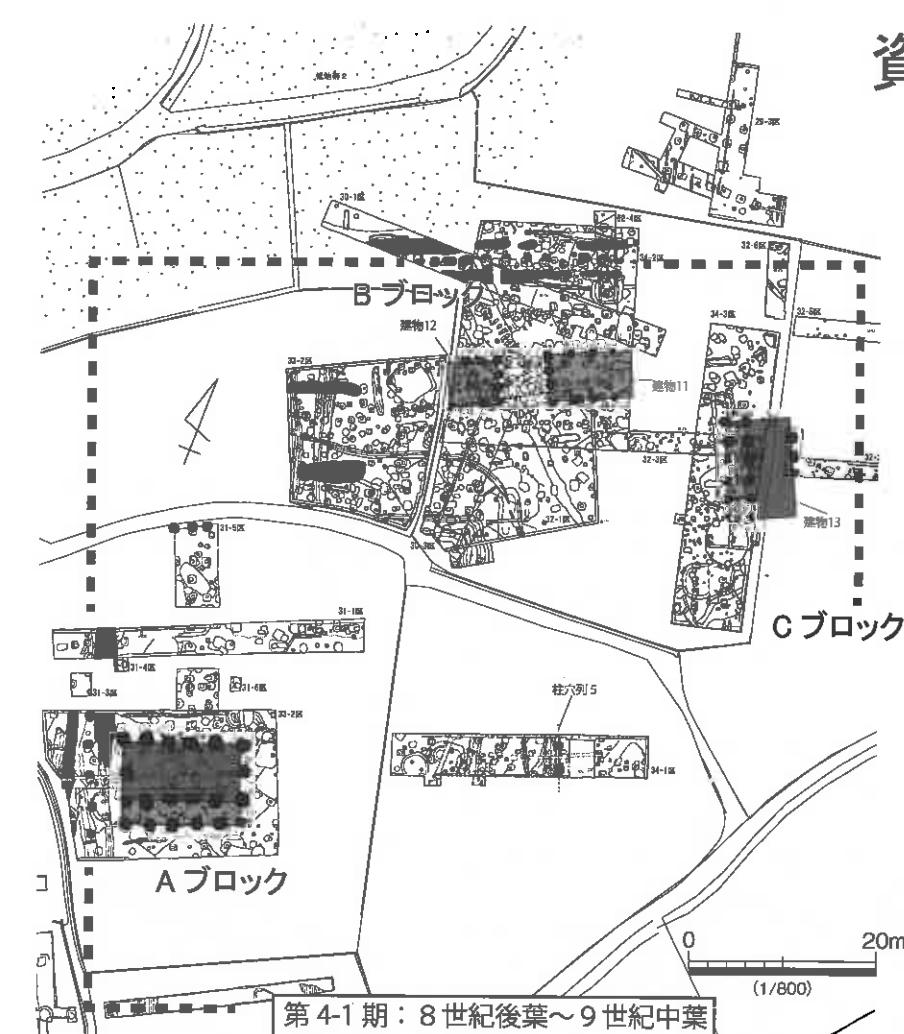
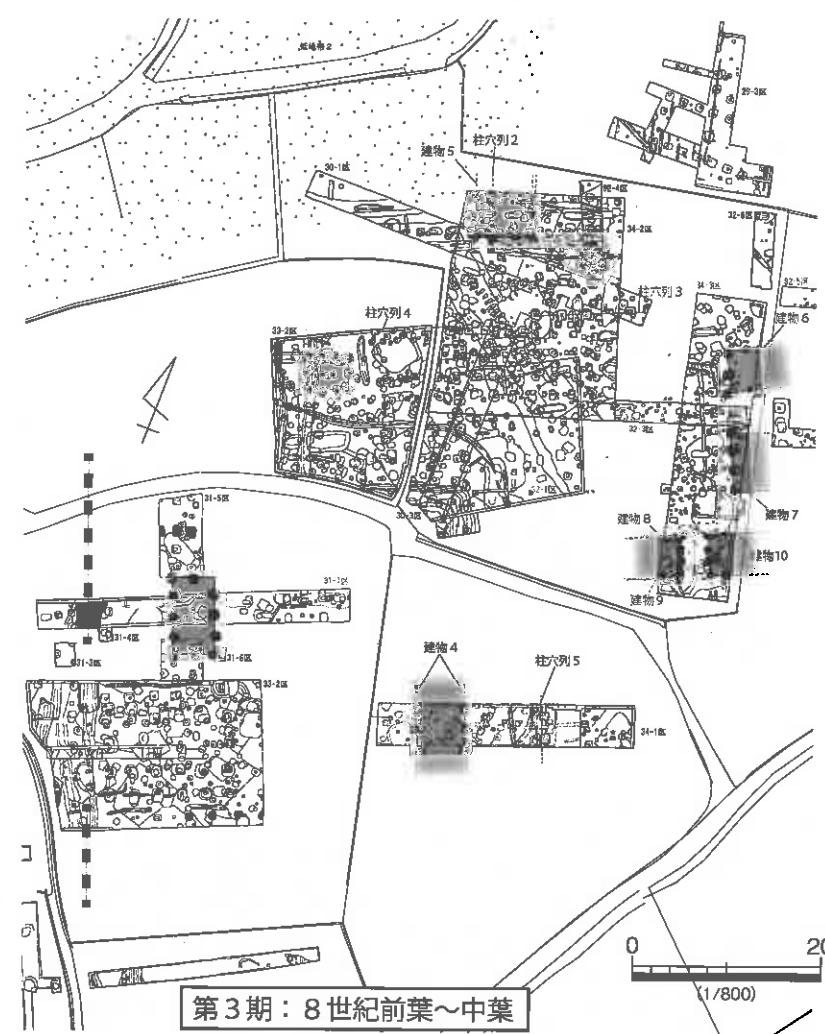
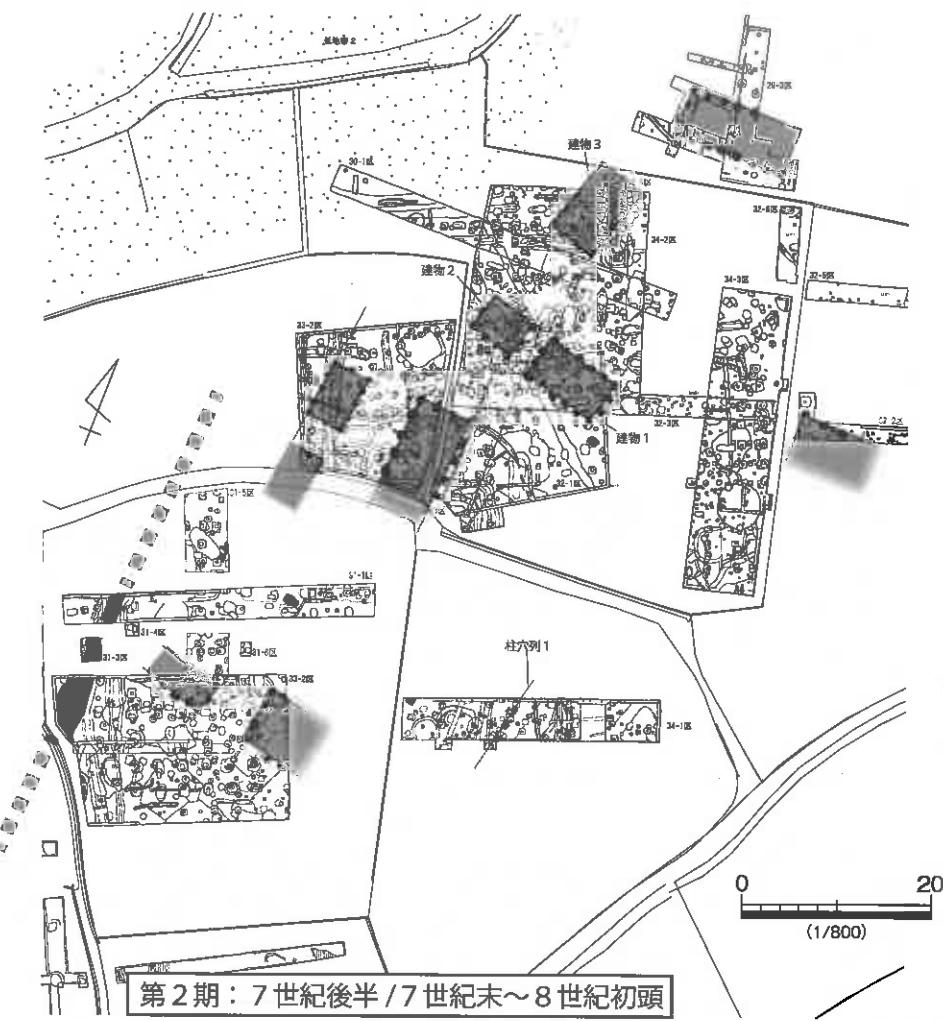
特殊遺物の分布

資料4



区画施設配置想定図

資料5



讃岐国府跡（開法寺東方地区）遺構変遷図（1：800）

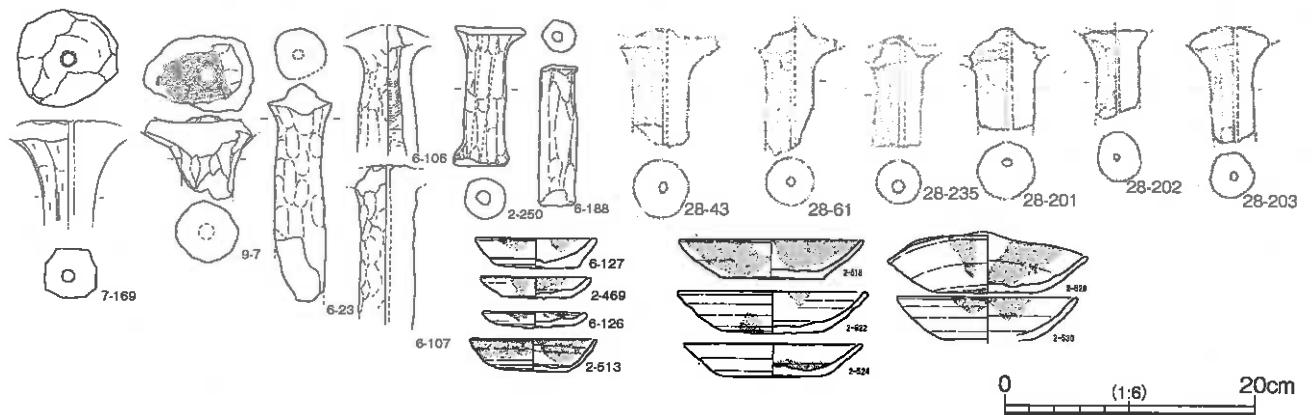
資料7

種別	遺跡名	面積(m ²)	対象範囲	点数/m ²	m ² /点	出土点数
国府	讃岐国府跡	2255	全調査区合計	0.349点/m ²	2.87m ² /点	786
		2147	輸入陶磁出土地区合計	0.366点/m ²	2.73m ² /点	786
		920	1977・79限定	0.691点/m ²	1.45m ² /点	636
流通中継点	大浦浜遺跡	23100	全調査区合計	0.017点/m ²	59.63m ² /点	394
	木太中村遺跡	642	調査区全体	0.031点/m ²	32.1m ² /点	20
	高松城西の丸町B・C	1357	礫敷き周辺	0.049点/m ²	20.56m ² /点	66
生産集落	西村遺跡Ⅱ・Ⅲ	4113	Ⅱ 西村北地区東部	0.019点/m ²	51.41m ² /点	約80
		1529	Ⅱ 川北地区	0.013点/m ²	76.45m ² /点	20
		2728	Ⅲ 山原地区	0.056点/m ²	17.95m ² /点	152
居館	西末則遺跡J区 西打遺跡B2区 空港跡地IV区画1	8370	上記3地点合計	0.030点/m ²	33.21m ² /点	252
		5050	屋敷地2単位	0.008点/m ²	117.44m ² /点	約43
		3028	屋敷地56.5×53.6m	0.0026点/m ²	378.50m ² /点	8
		14300	屋敷地110×130m	0.0032点/m ²	310.87m ² /点	46

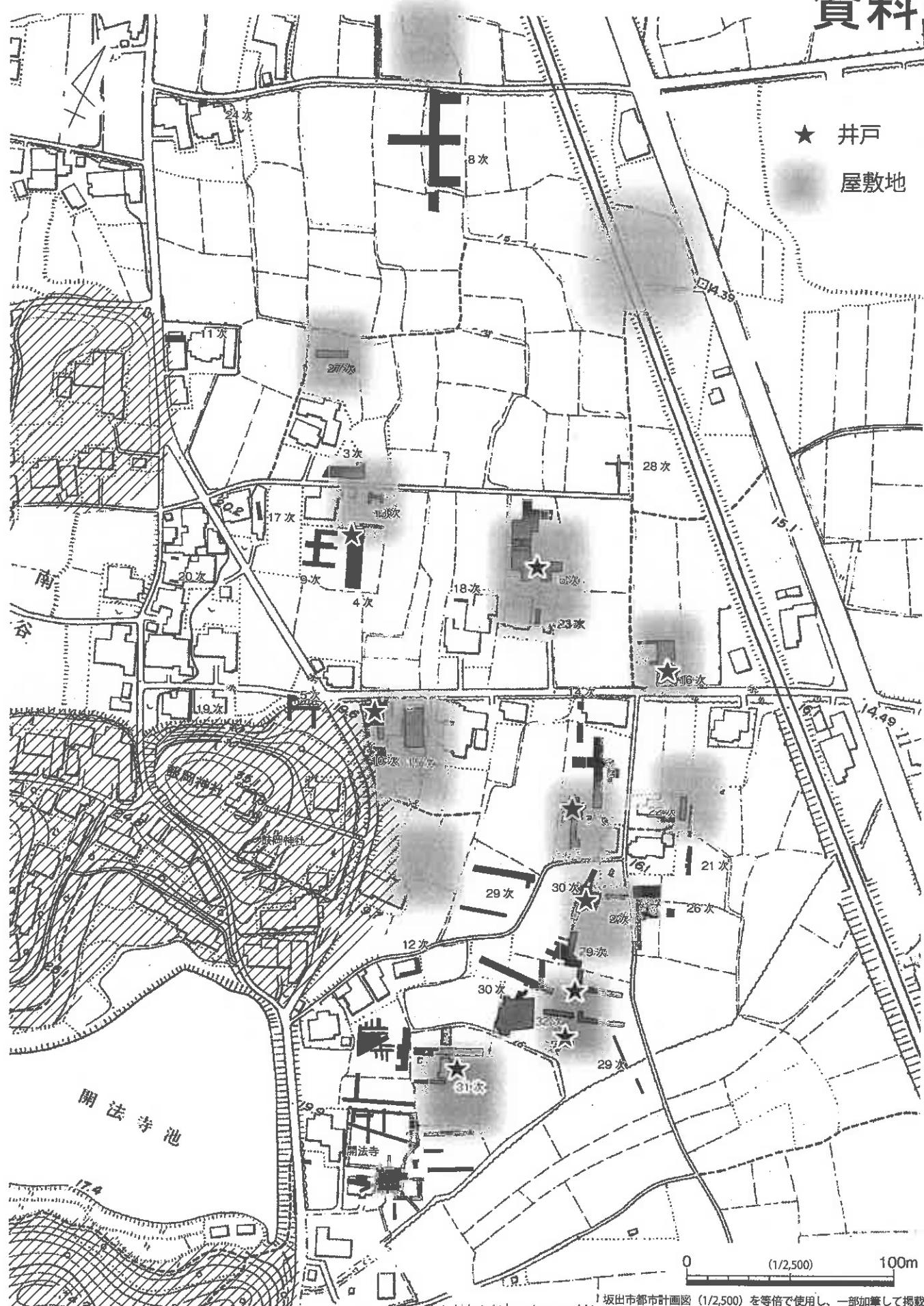
博多地下鉄1号線A・B区	644	45.464点/m ²	0.02m ² /点	29279	
博多祇園駅出入口2・3区	440	8.625点/m ²	0.12m ² /点	3795	
上記合計	1084	30.511点/m ²	0.03m ² /点	33074	
宮田遺跡A・B区	594	0.194/m ²	5.17m ² /点	115	
鎌倉蔵屋敷遺跡	650	1.357点/m ²	0.74m ² /点	882	
鎌倉蔵屋敷東遺跡	240	1.258点/m ²	0.79m ² /点	302	
具同中山遺跡	9000	14世紀以降を除く	0.061点/m ²	16.27m ² /点	553
浜ノ町遺跡	1450	0.025点/m ²	40.27m ² /点	36	

讃岐国府跡中国磁器出土点数と県内・外主要遺跡との比較

資料8



灯明具と考えられる資料



古代末～中世前期の屋敷地の想定と井戸の分布

資料6